

## 7. 木造建築を専門とする建築士からの FUKUI ホルツアーキテクト活動の評価

令和 7 年 3 月 4 日  
ウッド・ハブ合同会社  
實成 康治

### FUKUI ホルツアーキテクトの活動成果と県産材需要拡大に向けた助言(提言、意見)

2 年間にわたる FUKUI ホルツアーキテクトの活動成果を拝見した所見を述べる。世界的な脱炭素、持続可能な開発目標の潮流により木材利用の機運は年々高まっていることは周知の通りである。これを受けて関係各所で木材利用についての講習会等が多く開催されているところであるが、多くのセミナーは定性的な情報提供に留まっているように感じている。

非住宅分野における木材利用の促進には、木造非住宅建築物の構造設計に対応出来る構造設計実務者の育成が必要不可欠であるが、遅々として進んでいないのが実情である。

従来、木造は住宅用の構造種別であり法体系や構造設計手法が住宅に特化したものとなっている。このため木造住宅の構造設計に携わっている実務者では非住宅用途の建物に対応出来ない。また、S 造、RC 造にたずさわっている構造実務者にとって木造は非常に煩雑であり技術体系も発展途上であることから倦厭されている。

このような状況において FUKUI ホルツアーキテクトの活動は、単なる講習会に留まることなく、参加者が能動的に試設計を行い、実施設計レベルの構造設計図書をまとめ上げられたことは素晴らしいことだと感じている。設計実務は講習を受けただけで出来るようになるものではなく、身につけた知識の活用方法を自分の頭で考え、悩み、整理することでしか身につかない職能である。

一つの建物の構造設計をまとめるためには、材料、構造ユニットの構成、各接合部の納まり、構造計算ソフトの操作方法など多岐にわたる知識とその活用方法が必要となるが、成果物となる二つの試設計の構造設計図書は、これらを適切に理解し運用できる設計技能を十分に有していると評価できるものであった。

福井県産材の利用促進のためには出材能力、安定供給能力、コスト競争力等々、まだまだ解決する必要のある課題が山積していると思われるが、その課題を解決しつつ同時に必要なことは「まずは木造化」である。木造化すれば主フレームは外材であったとしても、4m 以下母屋や管柱、その他の柄材は福井県産材を活用できる余地が生まれる。

今回、FUKUI ホルツアーキテクトの活動によって福井県内において非住宅建築物の構造設計に対応出来る構造技術者が育成出来たことは「まずは木造化」の第一歩となると期待するところである。

木材は鉄やコンクリートに比べて弱い材料である。しかし、その特性を理解し活用すれば積雪地域でも、地域の公民館や店舗等を安全に計画することは十分可能である。コストを含めた適材適所を意識した中で、今まで以上に国産材が活用できる環境が整備されていくことを期待している。